

軍艦三笠引揚工事大要

0631

軍艦三笠引揚工事大要

軍艦三笠引揚工事ハ本艦遭難ノ翌日即ケ昨
年九月十一日ニ著手シ本年本月八日浮揚ニ
至ル迄デ月ヲ閲スルコト殆ンド十一月其間
ニ於ケル工事ノ大要左ノ如シ

遭難後本艦ノ状態

艦ハ浮標ニ繫留ノ後艦首ヲ正南ニ向ケテ沈
没シ左右ノ傾斜ハ殆ンド無ク首尾少シク傾
キ普通于潮ノ際上甲板ノ首端ハ六呎尾端ハ
十七呎ノ深サニ下リ尚ホ艦体ノ大部分ハ海
底軟泥中ニ没シ損所ノ如キハ全ク外部ヨリ
見テ得ザリシ

損所、検査

艦体ノ没シ居レル海底ノ泥土ハ其質最モ軟
カニシテ殆ンド流動物タルガ如キ感アリ隨
テ掘レバ隨テ崩レ比較的浅キ甲鋼帶下ノ損
所ヲ探ル為メニ敷重ノ泥留^拵メ板牆ヲ造リテ
其ノ内部ヲ掘リタルモ尚^拵影響ヲ受ケテ泥
土廣ク移動シ之レカ為メ艦体ノ傾斜ト沈下
トヲ惹起シ到底艦底ノ深キ部分ヲ外部ヨリ
検査スルノ不可能ニ屬シタリ又艦ノ内部ヨ
リ検査セシムルニ機械室以後ノ防禦甲板以
下ハ數層ノ甲板モ縱横ノ艙内ニ劃壁モ殆ン
ド原形ヲ保ツモノナク屈曲裂断ノ大小鋼板
類充満シ且ツ其ノ間ニ多數ノ彈丸藥筐類ノ

0633

混スルアリテ危険ヲ極メ長時日ヲ費シテ是
 等ヲ漸々取除クニ非ラザレバ艦底ニ近ヅキ
 検査スルノ途ナシ而シテ是等堆積物ノ下ニ
 果シテ破孔アルヤ否全ク考察スルニ由ナリ
 單ニ検査ノ爲メ長時日ヲ費スノ愚ヲ避ケ既
 ニ發見セル破孔ノ水防工事ヲ施行スルト同
 時ニ内部ヨリ出來得ル限り堆積物ヲ取除キ
 艦底ニ近ヅクノ途ヲ開キ破孔ノ水防終ラバ
 直々ニ排水ヲ試シ他ニ破孔ノ有無ヲ試験ス
 ルノ方法ヲ採ルコトセリ

第一排水

三十八年十二月二十五日既ニ發見セル破損
 部即チ右舷甲鋼帶下ニシテ前後ノ長サ約三

十呎上下ノ幅十五呎ノ一箇所左舷前後ノ長
ヲ五十六呎上下ノ幅十一呎ノモ一箇所都
合二箇所ノ水防工事完結シ且ツ上甲板ノ
假舷 牆 高リ後部ニ於テ二十五呎前部
於テ十七呎ノモ一全部竣成シ又諸唧筒ノ据
付ケモ結了ニ付ニ十七吋遠心唧筒四臺ト猿
橋丸唧筒ヲ使用シテ排水ヲ試ミタルニ假舷
牆ノ一部不充分ニシテ排水ニ得ガルニ付中
止ニタリ

第二排水

假舷牆ノ補修方結了ニ付本年一月十六日排
水ヲ試ミ上甲板以下迄排水ニ稍々艦体ニ移
動ヲ生シ殆ンド浮揚セントスルノ際卒然濁

水甲板諸孔ヨリ漲出ニ來リ艦底ニ破孔アル
 コト判然セシニ付排水ヲ中止シ更ニ檢査セ
 シニ左舷破孔ノ下ニ更ニ一大破孔アルコト
 ヲ發見シタリ(此排水ニ使用ノ唧筒ハ前回ニ
 同シ)之ノ新破孔ハ上下ノ幅ハ最大ノ處ニテ
 約八呎トシ後部ハ狭少ニシテ大ナラザルモ
 其前後ノ長サハ五十四呎ノ長キニ達スルト
 泥中深キトニ依リ艦ノ沈下ヲ防キ且ツ損所
 ノ全形ヲ檢スルニ大困難ヲ感シ遂ニ隧道状
 モノヲ造リ水防ヲ施シタリ
 前記破孔工事中本年三月二十五日ニ更ニ又其
 下方ニ長サ四十八呎幅約四呎ノ破孔アルヲ
 發見シタリ是ノ破孔ハ到底外部ヨリ水防ス

0636

ルヲ得ガハルニ付内部ヨリ水防ヲ施シタリ
内部検査ニ依リテ本年二月十日後部十二吋
火薬庫下ニアル前後長サ十七呎幅約六吋ノ
破孔アルヲ発見シ今七月十六日左舷ノ
シテユール前方ニ外板継目ノ離レタルモノ
アルヲ発見シ何レモ内部ヨリ水防セリ

第三排水

前諸破孔ノ水防完成シタルニ依リ本年七月
廿三日ヲ以テ前回同様ノ唧筒ヲ使用シ排水
ヲ試ミシニ艦ノ首部ハ漸々浮揚スルモ後部
ハ漏水ノ量唧筒ノ排水力ヨリ大ナルガ為メ
後部ヲ浮揚セシムルノ見込ニナキニ依リ遂
ニ中止シタリ

0637

本排水中前部ハ浮揚シ後部モ数呎浮出シタ
ルモ更ニ漏水ノ流出ヲ見サリシニ付艦底ニ
ハ他ニ破孔ナキモノト思考スルヲ得タリ

第四排水

前回ノ試験ニ依リテ漏水ノ大ナルト唧筒力
ノ不足ヲ感シタルニ依リ更ニ水防ヲ補修シ
且ツ有力ノ唧筒ヲ増備シテ本月七日午後二
時ヨリ排水ニ着手シ翌八日午前遂ニ浮揚セ
シムルヲ得タリ其ノ経過左ノ如シ
三十九年八月七日午後二時十五分ヨリ四臺
ノ二十七吋唧筒以下及ビ猿橋丸唧筒ヲ以テ
排水ヲ始メ艦内ノ水量漸々減少シ三時十五
分ニ至リ艦体泥土ヲ離レ上甲板前端ハ午後

三時五十分ニ後端ハ午後十時五十分ニ至リ
水面ニ出ツ艦内ノ水量減スルニ從ヒ豫メ艦
内下部ニ据付ケタル諸唧筒ノ運轉ヲ始メ又
水面低下ノ為メ其効ヲナサル唧筒ハ漸次下
方ニ卸口ニ尚ホ有効ナル唧筒ト共ニ排水繼
續中本艦汽罐室汽機室内ノ本艦諸唧筒中検査
ノ上故障ナキモノヲ以テ十日朝ヨリ排水ニ
利用シツ、アリ尚ホ三四五號罐ハ九日午後
罐室浚水漸々減少スルヲ以テ上部ヨリ直チ
ニ掃除並ニ検査ニ着手シ不良ノ一部假修理
ヲ施シ罐水ノ一部ヲ入レ換ハ十日午前一時
火架面ノ顯ハル、ヲ以テ點火用意ヲナシ午
前二時點火ヲ行ヒ汽力百五十磅ヲ生シ使用

0639

中且の十一日午前二時十三、十四、十五號鐘ニ
 照大ニ流カヨ五十磅トナニ 発電用ニ使用ノ
 目的ニ行継火中石炭泥土其他重量物取出ニ
 中ナリ十一日正午ニ於ケル本艦ノ吃水ハ前
 部二十九呎一時半後部三十一呎三時半ナリ
 ヲ以テ通常吃水迄浮キ揚ルハ容易ナリ
 本艦ノ体ニ補強ヲ要ニ入渠期日ハ未定ナリ
 无結了次第入渠セムル竹先
 増幅内ノ水量ハ約九千噸ニテ之レヲ艦内
 水量ニ合セタル全量ハ約三萬噸ナリ
 本艦排水ニ使用セリ吸筒ハ別表ノ如シ
 職工
 本艦引揚分ニ使用ノ潜水工ハ毎日四十組ヨリ

録

軍

五十組ノ間ニテ平均約四十三組トモ前月末日迄ニ使役セシ職工總延人員ハ四十一萬七百八十八人二分ナリ而シテ最モ多クノ職工ヲ使役セシ日ハ引揚當日即チ本月七日ニテ其數千六百四十七人ナリ

兵器

兵器ハ十二吋砲四門六吋砲十四門其他小口徑砲ハ漸次陸上ヶ海ニシテ砲身砲架共將來ノ使用ニ差支エナシ彈藥ハ目下陸揚上中室ニ氣圧榨機並ニ発電機類ハ現場ニ於テ手入中

0641

刊部
 海
 野
 野

供覽

總務課

第一部長

第三部長

第四部長

會計課長



軍政局長



0642

三
 部
 部
 部
 部
 部

案

軍艦三隻修理地、牛伏鎮才西野、

中ノヲ以テ、甲會、敵了兼同能ハ、

第海軍工廠、於テ修理中ノ塔、存、

敵乃目看及也

一九三〇年八月廿五日 軍務局

本領事課宛

軍第 二六三 號

佐領第

一四一四二

臣等所管之令及行河之勢也。其數
 之目よりあるは、河に於て、高き處あり、其位
 之周縁より、下るる處あり、今より、行
 支する。其の勢、河の勢より、下るる處あり、
 之目より、今時期、及、今より、高き處あり、
 之に申出之り、其の勢、河の勢より、
 地より、今時期、及、今より、高き處あり、
 別、今時期、及、今より、高き處あり、
 所、其地、今時期、及、今より、高き處あり、
 村、其地、今時期、及、今より、高き處あり、



八廿七

西暦一千九百二十年八月十日

高野山文庫保存会宛

かみゆき



(佐世保城史会印刷)

0644

伊地知大

人事

軍務司

報 送 達 紙

電 報 後 覽

局	着	局	發	受 信 人 所 居 氏 名	
取 扱 印	受 信 時 分	付 午 後 時 分	第 二 七 號	サ	イ
知	十 時	十 時 分	日	局	報

医務局 (三宅)

指 定	注 意	受 信 人 所 居 氏 名
事 記	<p>他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>	廿八

春、三宅、ハ、今、信、ニ、カ、レ、マ、ス、ト、イ、ハ、イ、マ、
イ、マ、マ、ニ、ト、レ、カ、レ、マ、
カ、レ、マ、ス、ト、イ、ハ、イ、マ、
カ、レ、マ、ス、ト、イ、ハ、イ、マ、

伊地知大

0645

軍務局 局長 員

電索

三笠に於てお定負う事からして及利

トせうにや又昔時期如何あふ必

海軍に於て海軍の業務表を調査送

付

辛酉年八月廿三日

平塚

佐藤 長

平塚

0646

電

軍務局

局員

艦政本部

各部

電行記

其後三箇ハ船底及小便劃内ノ排水ト物
品取出シ申ニ在リ今午前七時機室空清
明尚使用ニ堪ユルヲ認メ已ニ使用中ノ
モアリ又前罐三ツニ點大汽力百五
十磅ニテ使用準備中彈藥石炭等
前十二斤砲筒ヨリ取出シ申入渠迄ハ
此時日ヲ要ス

海下土上

六月十日
依鎮長官

相整

海

軍

電

方

0647

電 報 送 達 紙

局 着		局 發					名 氏 所 居 人 信 受	
取 扱 者	受 信 午 後 前 時 分	付 受 午 後 前 時 分	月	日	第 號	局	報	
<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ウ ス 、 サ ロ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ 4</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ト ウ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ウ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ウ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">一 五</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">0</p>	
<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ハ ナ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ウ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ン</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ヤ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ユ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ン</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">0</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ホ</p>	
<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ウ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ン</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">セ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ン</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ビ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ト</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ニ</p>	
<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">マ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">マ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">キ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">キ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">タ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">タ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">4</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">4</p>	
<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">デ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">デ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	
<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ヨ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">ヨ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	<p style="font-size: 2em; font-family: monospace;">シ</p>	

定 指

事 記

注 意

他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符
 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ
 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

0649

副官

村松

参事官

参事官

發行

尾

大臣

三十九年九月三十日

尾

次官

尾

尾

尾

尾

尾

三笠 綴 河上 重 三 急 尾

尾

尾

尾

0650

尚
問
之
圖
之
調
査
可
成
遂
之
事
進
行
中
上
事
進
行
中

格
ノ
斗
ニ
シ
ス

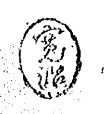
三
十
五
年
九
月
廿
二

公
館

以
此
為
證
也

0651

副官



參事官



發行日

八月八日

大臣 電

三月十八日八月八日起案

次官



軍務局長



司員



總務局長



主任局員



艦政部長



司法局長

心司員



電案

三笠首尾克く瑞揚りたんと就テハ更

母

件 0652

官房第三〇七二號集

東、西、南、北、各府、各縣、各支、各分、各會、各組、各職、
以、其、審、計、部、等、現、狀、就、其、詳、細、調、査、
ヲ、レ、指、告、ス、シ

辛丑年八月八日

大臣

依、續、考、査、完

別紙に因り、大正陸軍省府の沿革を、
別紙に因り、大正陸軍省府の沿革を、
別紙に因り、大正陸軍省府の沿革を、

辛丑年八月八日

依、續、考、査、完

舞鶴

0653

陸軍第三〇號

軍務局

局員

海

軍七九

陸軍第三〇號

軍務第三〇号軍務第三〇号兵部ノ位格
ニ充用ノハウシムル事ニ十二月末
迄所要ノ見込有之候條此等及
七回若候也

明治三十四年十月十日

齋藤信太郎



加藤軍務局長

0654

第...号

軍務局長



海

軍

案

目下軍務三管兵員、任居ニ充用、ハウカ
公ハ何時頃ニ至ラハ不用ト可成見込
有之被哉 至急何分、我田倉存ニ付段
申進致也

明治三十九年十月十一日

軍務局長

込鎮兼謀七宛

0655 第...

軍務局 經理部 艦政本部 軍令部 電

取扱者	受午後	受午後	第	局	局員	受信人住所氏名
	17時分	17時分	加藤	12		
			日	號		

注意 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由
 鏡シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ
 決シテ受取本ムヘ直送シ又ハ手渡シムベカラズ

清水 之 海 之 望 之 下 程

イマス ヲ
 エカサニ

0658

0660

大臣

濟

次官

濟

大臣

電

送

九月三十日

三笠艦長

軍務局

本日午前七時半最善キ状態ニ於テ浮揚シテ出渠ニ十時半

艦政本部

局長

會計課長

課長

課長

課長

第三部長

課長

第四部長

課長

軍令部

課長

0659

至急
廻
覧

0660

大臣

齊

次官

齊

大臣

早
九月三十

電
談

軍務局

艦政本部

軍令部

本日午前七時半
目取
テ浮揚
出渠
十時

局長

計課長

課長

第三部長

田

第四部長


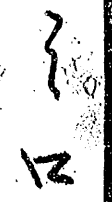
郎

田

田

田

電報送達紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	九月三日	第	報		
	午前	後	日	號	局		
		の			友	<p>注意 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ送シ又ハ手渡シメベカラズ</p>	
		七				<p>名氏所居人信發</p> 	
		字	分		指		
					定		
					事		
					記		

0661

三九三ノ上

供覧

電款

大臣宛

九月三日

三笠經長

軍務局

本日午前七時半最良好ナル状態

於テ浮揚之喫水前部ニ一呎一後

部ニ一呎一後部ニ一呎一後

無事ト無シ満潮

出渠一着ブイ

艦政部

待合
第三部長
第四部長
商部

第三部長

軍令部

海軍

三九六五

0662

29-30

久保田綱

電報送達紙

局 着		局 發			名氏所居人信受	
取扱者	受信 午後一時分	付午前 後九時九分	九月三十日	第九〇號	廿七局	報
指 定						
記 事						
注 意		他人へ宛タル電報ヲ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本力直送シ又ハ手渡シスベカラス				
		名氏所居人信發 ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ サ シ ス セ ソ				

0663

供見

電

軍務局

報

艦政本部

送第

達

紙

軍令部濟

受信人姓名

[Handwritten name and signature]

發

局長
報

廿七
五號
會計課
局長

第三

部

六月二十四日

局

受午後一時三十分

着

受午後三時

局

取扱者
受信

指定

[Handwritten mark]

注意 受信人姓名

他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符
箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ
決テ其受取人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

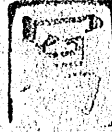
事記

[Large handwritten characters: 三笠有出渠故障]

[Handwritten characters: 九月廿六日 付長友]

0664

田



電 訊

九月三十日

三笠 艦長

大臣 宛

本日午前七時半最善キ状態ニ於テ浮揚
セリ出梁ハ十時半

海 軍

0665

9-30

三九

大臣

副官



參事官

三九 年 月 日 起 案

發付

八月廿一日

次官



軍務局長



宣機密第 三二九號
前田三郎
軍務局長
於 宣機密第 三二九號
宣機密第 三二九號

母

宣

0666

海軍

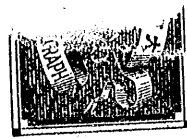
中
國
海
軍
の
現
況
に
関
し
て
の
報
告
書
に
於
て
は
海
軍
の
現
況
を
詳
し
に
記
載
し
て
お
り
ま
す
。

海軍の現況を詳しに記載し
ておられます。

海軍の現況を詳しに記載し
ておられます。

0667

紙 達 送 報 電



局 着		局 發		名氏所居人信受	
取送者	受 信 午後 後	受 付 午後 後	第 一 月 日	第 一 報 局	親 展
②	9時 分	9時 分	八月 日	五 報	
前田三益本旦問主 栄一様中回送ノ由 取斗ノ法 小寺有休録録録				定 指	名氏所居人信受
				事 記	サ ハ カ

0668



第一
軍大
海軍
陸軍

東務局

大書

電報 八月十日

陸軍省 参考簿

三笠、前回査問査類、今回、査問進行上参考、爲之尤必要、三付用指次、第返却、不(キ、ヨリ)更、至急送附、乞フ

〔坂根製〕

0669

電 報 送 達 紙

局 着		局 發					名氏所居人信受	
取扱者	受信	受信 午前	受信 午前	第	第	報	カイノヒトヨリ	
		分	分	号	号	局		
一ノ	一ノ	十	九	五	二	三		
指 定							注 意	
フ、 一、 二、 三、 四、 五、 六、 七、 八、 九、 十、 十一、 十二、 十三、 十四、 十五、 十六、 十七、 十八、 十九、 二十、 二十一、 二十二、 二十三、 二十四、 二十五、 二十六、 二十七、 二十八、 二十九、 三十、 三十一、 三十二、 三十三、 三十四、 三十五、 三十六、 三十七、 三十八、 三十九、 四十、 四十一、 四十二、 四十三、 四十四、 四十五、 四十六、 四十七、 四十八、 四十九、 五十、 五十一、 五十二、 五十三、 五十四、 五十五、 五十六、 五十七、 五十八、 五十九、 六十、 六十一、 六十二、 六十三、 六十四、 六十五、 六十六、 六十七、 六十八、 六十九、 七十、 七十一、 七十二、 七十三、 七十四、 七十五、 七十六、 七十七、 七十八、 七十九、 八十、 八十一、 八十二、 八十三、 八十四、 八十五、 八十六、 八十七、 八十八、 八十九、 九十、 九十一、 九十二、 九十三、 九十四、 九十五、 九十六、 九十七、 九十八、 九十九、 一百、 一百一、 一百二、 一百三、 一百四、 一百五、 一百六、 一百七、 一百八、 一百九、 二百、 二百一、 二百二、 二百三、 二百四、 二百五、 二百六、 二百七、 二百八、 二百九、 三百、 三百一、 三百二、 三百三、 三百四、 三百五、 三百六、 三百七、 三百八、 三百九、 四百、 四百一、 四百二、 四百三、 四百四、 四百五、 四百六、 四百七、 四百八、 四百九、 五百、 五百一、 五百二、 五百三、 五百四、 五百五、 五百六、 五百七、 五百八、 五百九、 六百、 六百一、 六百二、 六百三、 六百四、 六百五、 六百六、 六百七、 六百八、 六百九、 七百、 七百一、 七百二、 七百三、 七百四、 七百五、 七百六、 七百七、 七百八、 七百九、 八百、 八百一、 八百二、 八百三、 八百四、 八百五、 八百六、 八百七、 八百八、 八百九、 九百、 九百一、 九百二、 九百三、 九百四、 九百五、 九百六、 九百七、 九百八、 九百九、 一千、 一千一、 一千二、 一千三、 一千四、 一千五、 一千六、 一千七、 一千八、 一千九、 二千、 二千一、 二千二、 二千三、 二千四、 二千五、 二千六、 二千七、 二千八、 二千九、 三千、 三千一、 三千二、 三千三、 三千四、 三千五、 三千六、 三千七、 三千八、 三千九、 四千、 四千一、 四千二、 四千三、 四千四、 四千五、 四千六、 四千七、 四千八、 四千九、 五千、 五千一、 五千二、 五千三、 五千四、 五千五、 五千六、 五千七、 五千八、 五千九、 六千、 六千一、 六千二、 六千三、 六千四、 六千五、 六千六、 六千七、 六千八、 六千九、 七千、 七千一、 七千二、 七千三、 七千四、 七千五、 七千六、 七千七、 七千八、 七千九、 八千、 八千一、 八千二、 八千三、 八千四、 八千五、 八千六、 八千七、 八千八、 八千九、 九千、 九千一、 九千二、 九千三、 九千四、 九千五、 九千六、 九千七、 九千八、 九千九、 一萬、 一萬一、 一萬二、 一萬三、 一萬四、 一萬五、 一萬六、 一萬七、 一萬八、 一萬九、 二萬、 二萬一、 二萬二、 二萬三、 二萬四、 二萬五、 二萬六、 二萬七、 二萬八、 二萬九、 三萬、 三萬一、 三萬二、 三萬三、 三萬四、 三萬五、 三萬六、 三萬七、 三萬八、 三萬九、 四萬、 四萬一、 四萬二、 四萬三、 四萬四、 四萬五、 四萬六、 四萬七、 四萬八、 四萬九、 五萬、 五萬一、 五萬二、 五萬三、 五萬四、 五萬五、 五萬六、 五萬七、 五萬八、 五萬九、 六萬、 六萬一、 六萬二、 六萬三、 六萬四、 六萬五、 六萬六、 六萬七、 六萬八、 六萬九、 七萬、 七萬一、 七萬二、 七萬三、 七萬四、 七萬五、 七萬六、 七萬七、 七萬八、 七萬九、 八萬、 八萬一、 八萬二、 八萬三、 八萬四、 八萬五、 八萬六、 八萬七、 八萬八、 八萬九、 九萬、 九萬一、 九萬二、 九萬三、 九萬四、 九萬五、 九萬六、 九萬七、 九萬八、 九萬九、 十萬							他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモハハ此由ヲ符 箋シ直ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決テ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ	
							事 記	

0670

也、し、し、定、存、山、各、庫、一、得、分、と、今、日、も、移、し
ま、ま、定、存、山、各、庫、一、得、分、と、今、日、も、移、し
況、今、得、分、山、各、庫、一、得、分、と、今、日、も、移、し
亦、何、と、及、北、傷、去、一、釣、糸、の、釣、付、所、
此、の、山、上、に、移、能、は、し、今、も、高、主、及、強、公
其、^庫、向、の、新、得、分、に、移、す、^變、以、出、時、
一、大、山、也、之、定、存、山、各、庫、一、得、分、と、今、日、も、移、し
、有、り、と、一、切、ノ、状、況、ヲ、調、査、シ、一、方、三、三、云
望、引、揚、ノ、長、事、也、向、山、上、各、庫、一、得、分、と、今、日、も、移、し

(坂田 製)

0673

こゝに云はし、潜水スヲし、査問ト必スル
ト事、終リ、調査セシムルホ、お、精、察、字
ハ、調査日、為、シ、上、記、年、十、月、十、日
査、問、ヲ、結、了、ス
ハ、指、出、テ、依、ル、シ、心、之、ハ、公、的、方、ヲ、採、取、ス
水、中、標、識、物、ホ、以、リ、標、識、ノ、部、ヲ
標、識、ス、ル、ト、地、図、ス、ル、ニ、テ、又、標、識、ノ
書、付、シ、状、況、ホ、リ、之、ヲ、見、ル、ニ、或、先、見、察、ス
手、又、ハ、依、ル、シ、標、識、物、性、ヲ、有、ス、ル、物、ハ、リ、程

0674

内、或、部、之、五、牛、之、ヲ、燦、也、シ、ノ、コ、ト、セ、
マ、シ、ト、ル、所、ナ、ラ、又、今、迄、也、也、也、也、也、
ハ、午、午、十、一、時、に、消、滅、也、也、也、也、也、
又、電、燈、線、ヲ、以、テ、火、災、に、起、因、ト、ス、コ、ト、ナ
リ、又、今、迄、に、石、神、モ、古、自、初、知、如、神、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
況、乎、之、ヲ、見、シ、テ、石、炭、庫、ヲ、以、テ、其、地
固、ト、認、ル、コ、ト、カ、ク、也、也、也、也、也、也、也、也、

（複製）

状況此ノ火痛噴出ノ状況あり判
新石ノ事ヨリ得ル公字ノ人ヨリ後部ノ事
得ル公字ノ事内ノ檢細ニシテ公字ノ事
其ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
定スル事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
切スル事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
然レテ其ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
中ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
其ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

0676

弊之ヲ下スヲハサレ依リ在ルヲ月ノ
 望ノ浮揚及来々海ノ中ハ向山博吉以
 十名ヲ以テ表向ニ事ヲ今ヲ但録シルヤ
 之望ニ集ル沈^沈原^原同ヲ初事セシヨリ今
 高島ノ会ノ在リテトシテ三望ノ浮揚及
 於テ實現ノ現况ノ状ニ即チ私仲破
 換ノ位置ノ状況ノ跡留ヲ探案トシテ
 石字ヲ取テ教示ス之ノ時ニハ字環ニ
 實地ノ試験ナリ客道ノ以テ字環ノ模

（坂田）

0677

保、経、火、越、焼、及、残、古、物、あ、り、ま、す、と、書、き、
 及、他、の、各、科、に、在、る、源、古、物、庫、の、状、
 況、調査、に、必、ず、あ、ら、う、之、を、と、り、ま、す、と、尋、問、
 お、一、切、の、事、を、終、了、し、精、細、に、調、査、し、ま、す、と、
 申、上、り、し、一、月、^九日、~~申、上、り、~~結、了、と、す、
 其、結果、を、信、じ、之、を、公、衆、に、同、報、し、
 原、由、を、傳、へ、た、法、に、時、分、廿、五、分、庫、に、格、細、
 を、認、状、火、災、の、目、録、を、受、取、り、申、上、り、
 保、古、物、庫、の、事、を、結、了、と、書、き、越、焼、の、事、

0678

0679

此、書、を、起、
 意、の、大、事、
 件、就、キ、決、
 ハ、シ、ト、信、ス

三ノ宮ノ志
年ノ状
ノノ字句
後ノ事
カ
田ノ事
ノ格細
ノ向
焼可

0678

0679

災害ヲ起シタル原因ト認ナラシ居
處ノ大業ヲ供給シタルモノ、貴
任ニ就キ決定シ置ルノ必要アリ
アレント



本稿ハ字ノ書同義
同義ノ類末リ公示ス
ト云フニ當マルモトス



地しるす方事之に到るるをせしむ
災也改まらざるを望み、深望亦
板上ぬきこき、互に互に、
ふしきモノナキヲ以て、
事し、
月日、

0679-2

是ハ此ノ記者ニ記付タルノ域ナリ
おき電知有甚難

軍艦三笠沈没原因調査顛末

明治三十八年九月十日軍艦三笠、爆沈スルヤ當
時、聯合艦隊司令長官東郷平八郎、海軍
中將三須宗太郎以下八名ヲ以テ査問委員會
ヲ組織シ三笠沈没原因ヲ調査セシメタリ今委員
會ニ於テハ三笠乗員ノ要部ニ在リタル者及残存下
士卒中六十七名ヲ査問シ又三笠ニ備付ノ號火及
裝藥、製造年月九月十日ニ調査セシ三笠石炭
庫ノ溫度全日ニ於ケル三笠彈火藥庫ノ電燈、点
滅ノ状況全彈火藥庫ニ格納セル諸品ノ行衛不明者
及死傷者、釣床釣場所他、同型艦ニ於ケル火藥
重量及彈火藥庫内局部溫度ノ比較變異等
時、天候並ニ三笠乗員中精神病者ノ有無等一

切状況ヲ調査シ一方ニ三笠引揚ニ従事セル向山佐
 世保工廠長ニ照會シテ潜水工ヲシテ査問上必要
 ナル事項ヲ調査セシカル等最も精密ナル調査ヲ為シテ
 正明治三十八年十月十日査問ヲ終了セリ
 其報告ニ依リ三笠火災ハ艦外ヨリ水中爆発物
 等ヲ以テ船体一部ヲ爆破シタルニ起因スルモノニアラズ
 又火災當時ノ状況等ヨリ之ヲ見ルニ或先惡ナル
 手鮫ニ依リ爆発性有スル物件ヲ艦外ノ或部ニ
 置キ之ヲ爆発セシメタルモノニアラザルト明ナリ又全艦外
 ノ電燈ハ今日ハ午後一時ニ消燈セシメタルヲ以テ電燈
 電燈線ヨリテ火災ノ起因トナスコトヲ得ルハ全艦ノ所
 炭庫ニ當リ初夜巡檢前ニ検査シタル所ニ依リハ異
 常ノ高温度ヲ呈セザリシノミナラス火災ノ状況ヨリ之

見ルモ石炭庫ヲ以テ其起因ト認メカラス當時大
 炎發生ノ場所及状況并ニ火焰噴出ノ状況等ヲ
 リ判断スルトキハ同艦ノ大炎ハ全ク後部六号彈火
 藥庫内ニ格納シテリタル火藥若ハ火工品ノ自発
 ニ起因スルモノト認定スルハ三笠乗員ニハ責任アル
 モト云フヲ得タルニ在リ
 然ルニ右査問會ノ調査ハ三笠沈没中ニ為シタルモ
 ナルヲ以テ全艦浮揚後更ニ其破損等ノ實況ヲ
 確ルニアテサレハ充分ナル所定ヲ下スヲ得サルニ依リ本年
 八月八日三笠ノ浮揚後直ニ海軍中將向山煥若以下
 十名ヲ以テ査問委員會ヲ組織シ更ニ三笠沈没ノ
 原因ヲ調査セシメタル委員會ニ於テハ主トシテ三笠浮
 揚後ニ於テ實現セシ状況即チ船体破損ノ位置状

况、残存之彈藥、火工品、石炭等ノ数量之計ハ、學
 理者ハ實地ノ試驗等ヨリ答呈變形ノ模様艦
 内、燃燒及残存物等ヲ實査シ更ニ他ノ各艦ニ於ケル
 彈藥庫ノ状況調査及必要ナル旧三笠ニ乘員ノ尋問
 等一切ノ手段ヲ盡シテ精細ニ調査シタル上本年十
 月九日査問ヲ結了セリ
 其結果ニ依レハ三笠火災ノ起因ハ左舷六時火藥庫
 ニ格納セシ紐火藥ノ自然ノ衰質ヨリ局所温度ノ
 増加ヲ来シタル結果燃燒ヲ誘起シ遂ニ大事ニ立到
 リタルモノナルヲ要ス火災發生前ニ三笠乗員、彈藥等取
 扱上為シタル處置注意ハ然レト同然スルモノナリ以テ今
 回ノ火災ハ全ク當面者ノ職放棄等ニ歸スルモノ
 ナリ得ル所ノ新是、得ル

~~三笠~~

0684

三笠 艦長 三 揚子 兼 長官

セウんこも 揚子 兼 長官

由 自 行 司 命 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

行 八 ん こ も 一 ニ テ 一 揚 子 兼 長 官

了 始 行 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

ん 一 一 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

キ 一 一 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

ん 一 一 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官 揚 子 兼 長 官

又引揚委多其古毛
直子、鑑書存内、各機
命、合、の、の、に、テ、行、る、の、機
純十、キ、ハ、カ、シ、カ、ノ、コ、ト、ナ、リ

三八九一五年前九時

0685

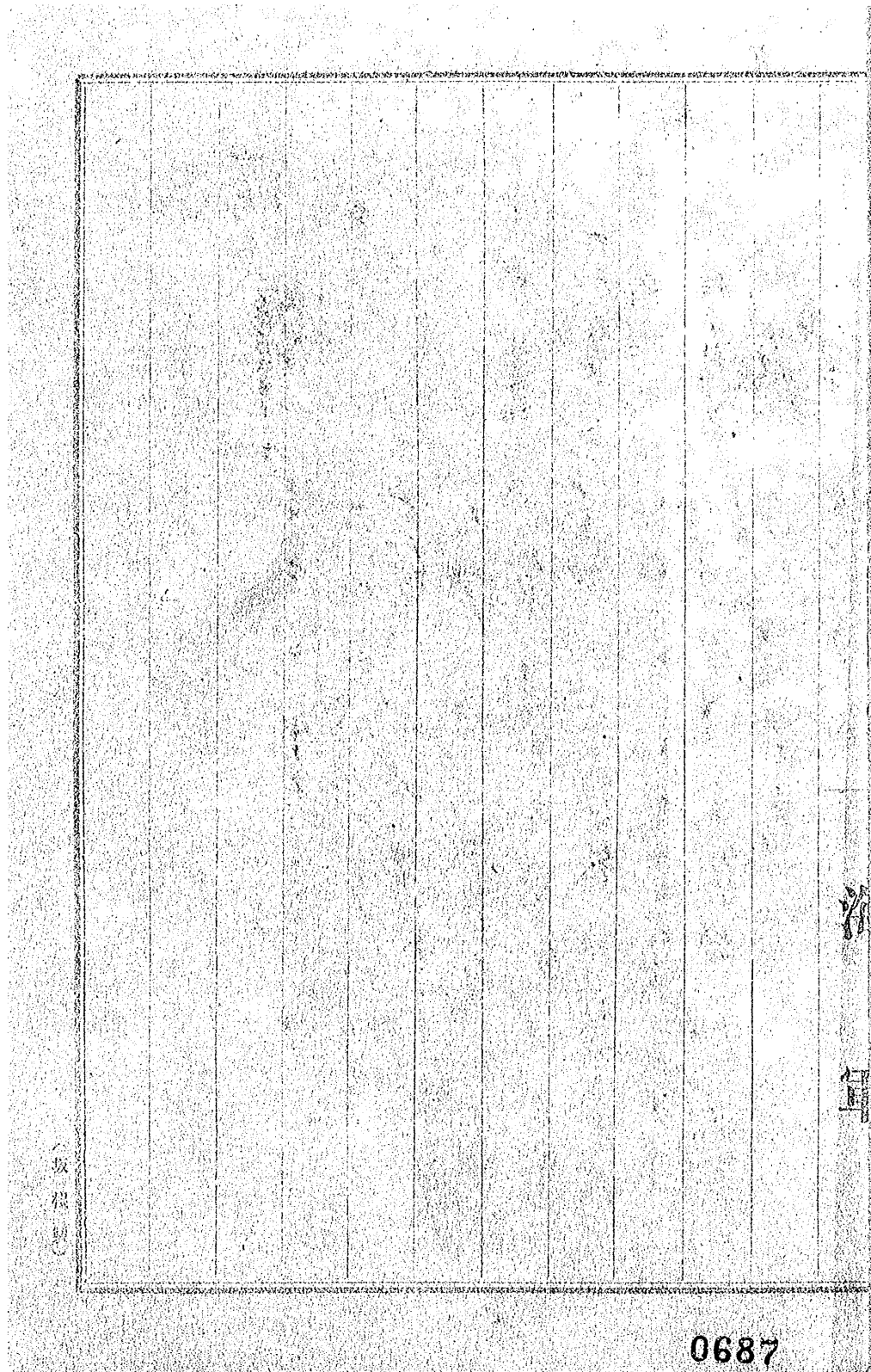
次官

電報九月十日

佐鎮参謀長

三笠艦長ヲ参謀長トスルトキハ其
 先任慣依テ自ラ本府ヨリ出スル
 委員ノ制限セラルトナリ命令
 上ヨリ揚事業、上ニ種ニ法滞セテ
 ヲ悉ク因テ引揚事業ニ軍ニ本府長官
 ニ命セラル本府長官、能ク適宜委員
 ヲ命スルコトヲ得ル様ニ改メテ前電
 意見ノ報トシテ申進ム

0686



電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	受午後	第	局	報	名氏所居人信受
	午後 9時 分	午後 1時 分	午後 1時 分	第 三 一 號	友 報 局	友 報	友 報
3	4	1	1	ス	定 指		
1	7	1	1	ル			
1	7	ハ	1	ト			
上	7	ト	カ	エ			
二	4	ト	ス	ニ			
2	4	ト	ト	ハ			
2	4	ト	ト	ン			
2	4	ト	ト	ノ			
2	4	ト	ト	リ			
2	4	ト	ト	ニ			
2	4	ト	ト	ト			

注 意
 他人宛タル電報ノ配達ヲ受ケルモ人ハ此由ヲ符
 録シ直チニ此レヲ配達シタル電報局所へ返戻スベシ
 決テ其受取本人へ直達シ又ハ手渡シスベカラズ

0688

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				受 信 人 居 所 名 氏
取 扱 者	受 信	受 午 前 後	時 分	第 號	報 局	
				月 日		2
指 定						注 意
事 記						受 信 人 居 所 名 氏
<div style="display: flex; flex-direction: row-reverse;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-right: 10px;"> 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此山ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ </div> </div>						他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此山ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

0689

既電訓備田電を乞

電報

次友

佐銀

三笠艦長ヲ引揚兼負長トスルコトニ事業
ノ進捗上面白カラヤル結果ヲ生ズ(シト存ス
ル寧ニ三笠艦長以外揚ニ必要ノ者ニ鎮
守府附トシテ本府長官ノ指揮ノ下ニラスル
即チ本府長官ノ命ケラルル處ニ本府ヲ
出ス處ニ兼負トシテ引揚ニ従事
スル方然ルニシト存スレハ意見トシテ申
進ム

0690

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取 扱 者	受 信	付 午 後	受 午 前	第 一 二 號	局	報	
	午後 1時 分	午後 9時 分	午後 9時 分	第 一 二 號	局	報	氏名
<p>指 定</p> <p>事 記</p>							<p>注 意</p> <p>他人宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 號シテ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ受取本人へ直達又ハ手渡シベカラズ</p>

0691

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	信受 午後 後前	付受 午後 後前	月	第		
		時	時	日	號		
		分	分	字			報
定 指						名氏所居人信發	
事 記						他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シヌベカラズ	
手 取 者 氏 名 宛 先 手 取 者 氏 名 宛 先							

0692



霞次 九月廿七日

次官宛

佐藤吳澤号

昨日意見見下と申進め先三の五
引揚委員組織の件は何の事
詮議たご申や委員の撰定上、新倉
五アハ五方意見に決定可申之夕し

0693

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信 午後 後前	付 午後 前	第	第	局	治 友	
	10時5分	10時	二	三	友		
	分	日	號	報	報		
<p style="font-size: small;">定 指</p> <p style="font-size: small;">事 記</p>					注 意		
					他人宛タル電報ノ配達ヲ受テタルモノハ此由ヲ符 シ直チニ此レヲ配達シタル局所へ返戻スベシ 本ノ直送シテ下渡シスベカラズ		
電報本文： 友治 報局 三二 日 10時 10時5分							

0694

佐鎮參謀長ノ電案(ウナ)



次官

三十八年九月十六日發電

三笠引揚委員中ニハ必要ニ應ジ貴府ノ高等官職
負フ加ハラシメラルヘキハ勿論ノ儀ナリ

0695

電 報 送 達 紙

局		着		局		發		名氏所居人信受	
取扱者	受信	受午前 信午後	受午前 付午後	第	人	月	日	第	報
		分	分	字	字	日	日	局	報
<p>九月十日</p> <p>本府高 等官職 加 信 送 達 紙</p>								<p>指 定</p> <p>事 記</p>	
<p>ハ、ヒ、キ、ア、シ、イ</p> <p>フ、ト、ウ、カ、ニ、ハ、チ、ノ、コ、ノ、イ</p> <p>ル、ハ、ク、ク、ク、ク、ク、ク、ク、ク、ク、ク</p>								<p>注 意</p> <p>他人宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 號ニテチレテ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>	

0696

海軍



2

三浦大將
増田大將
南郷大將
増田大將
阿部大將
阿部大將
阿部大將

海軍

(海軍)

0697

紙 達 送 報 電



局 着		局 發		名 氏 所 居 人 信 受		
取 扱 者	受 信	付 午 後	第 一	第 一	局	親 展
	信 午 前	後 前	九 月 十 日	九 月 十 日	報 友	

Handwritten Japanese text (likely a telegram message) written vertically in the main body of the form.

定 指

Handwritten vertical text next to '定指'.

事 記


注 意

Vertical text block containing instructions or notes, including the phrase '他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符'.

0698



電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	受午後	第	局	 <div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">手紙</div>	
	午前 後 二時 八分		一時 一分	九 月 九 日	友 報 局		
<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;"> 三公五ノ悲報ニ極シ其際國家 ノ為メ痛惜ニ耐カズ侍 容申上カ 九月九日 第一師団司令部 </div>						定指	<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;"> 友報局 送達 </div>
						注 名氏所居人信受 他人ノ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 ニ此レヲ送シタル局所へ返戻スベシ 取本人ニ送シテ渡シスベカラズ	

0699



大 臣 ア 丁 電 報 九 月 十 七 日
特 務 飛 隊 司 令 及

三 望 不 屬 一 塔 過 ヲ 聞 知 之 痛 惜 三 億
(公 關 下 一 付 意 中 ヲ 察 之 遺 憾 極 大)
之 凍 之 海 中 揚 子 江 報 ヲ 得 之 後 以 是
慰 藉 ア ラ ン ト 社 以

(複製 製)

0700

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名 氏 所 居 人 信 受	
取 扱 者	受 信	受 午 前 信 午 後	受 午 前 付 午 後	第 號	局 報		
		分	分	日	日		
指 定						注 意	
						名 氏 所 居 人 信 發	
						事 記	
						他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 號シ直チニ此レヲ配達シタル電報局所へ返戻スベシ 決シテ其受取ルルハ一面又ハ手渡シスベカラズ	

0701

電報送達紙

局 着		局 發		受 信 人 居 所 名	
取 報 者	受 信	受 付	第 一	報 局	親 展
	午 前	午 前	日 號		
	後	後			
	七 時 分	七 時 分			
<p>大臣 津輕海峽防禦司令官</p> <p>三望ノ件深ク閣下ニ御同情ヲ表ス</p> <p>本件ハ極秘密ニ致シ居リ</p>				定 指	注 意
				親 展	他人ニ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符
				事 記	箋 直チニ此レヲ配達シタル電信局所ニ返戻スベシ
					決シテ其受取本ノ手渡スベカラズ

0702



電報送達紙

局		着			局		發		名氏所居人信受	
取扱者	受信	受信 午前 午後	付 午後	後 午前	第	字	日	號	局	報
		11時 分	9時 分	18時 分	2	9	1	1	カ イ タ キ 4	9 2 6
<p>指 定</p> <p>カ イ タ キ 4</p> <p>事 記</p> <p>他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人ノ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>										
<p>注意</p> <p>他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人ノ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>										
<p>電報ヲ接シ直ニ受取ル ニ耐ルハ解令照会スル</p> <p>三立変災ニ関スル カニヒタスル カニヒタスル カニヒタスル</p>										

0703

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	受午後 信午後	付午後 後午前	第	局	報	
		17時	17時	第	局	報	カ シ コ
		分	分	日	號	局	
						定 指	
<p style="font-size: 2em; font-family: cursive;"> 東京からゆう二つ送る 午後五時 のりて 三三三 〇七〇四 </p>						事 記	
						注 意	名氏所居人信受
						<p style="font-size: 0.8em;"> 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決テ其ノ本人ニ送シ又ハ下渡シスベカラズ </p>	<p style="font-size: 2em; font-family: cursive;"> 〇 〇 </p>

0704

電集



今福

伊地知三笠船長

次官

過般貴船一急船ノ折リ一覽之也
 敵彈頭部ノ
 形状ヲ存スルモノ
 裝甲ヲ貫通セルモノト然ラサ
 ルモノヲ向ハス
 取調上矢考トシタキ
 所存ナルヲ以
 テ便宜筐詰トシ送付サシタシ
 當未一月十日ノ海
 戦ニ於テ十番砲部附近
 殘存セル彈頭モ今様
 送付アリタシ

録

0705